

第2回 Pitch to the Minister 懇談会“HIRAI Pitch” 議事概要

1. 開催日時・出席者等

- 日時：平成30年10月31日(水)17:00～18:20
- 場所：中央合同庁舎8号館10階 平井国務大臣室
- Pitch テーマ：データ流通社会と技術的・制度的環境の整備
- 招へい者：眞野 浩 エブリセンスジャパン株式会社 代表取締役最高技術責任者
- 出席者：平井国務大臣、左藤副大臣、安藤大臣政務官
幸田内閣府審議官、三輪 CIO、神成 CIO 補佐官、中川大臣官房審議官、
高田宇宙開発戦略推進事務局長、住田知的財産戦略推進事務局長、
大坪健康・医療戦略室次長、堀内参事官(科技)
寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

2. 眞野代表取締役からの説明

- エブリセンスジャパン株式会社は、データの買い手と売り手に取引を行う場を提供することを事業とする会社。本事業を始めたのは4年前であるが、最近になってようやく認知され始めていると感じている。既に、同取引所では、5社が実証を開始しており、今後、様々なデータの取引が行われるようになることが期待されている。
- 取引が円滑かつ公正に行われるよう、取引所機能を提供する同社自身はデータを自ら収集・保有を行わないことやデータの値付けに関与しないなどルールを設けて運営を行っている。また、取引の記録の保管・追跡(トレーサビリティ)や、通信の秘密の保持などについても万全を期している。
- 眞野代表取締役は、過去に WiFi の原型となる公衆無線技術を開発し普及させる事業にも携わったが、WiFi が世の中に受け入れられて普及するまでには時間がかかった。データ取引所という事業についても、時間がかかるかも知れないが、日本がデータの分野において競争力を強化するために必要な取組であると考えているため、事業の価値や必要性を伝えていきたいと考えている。

3. 質疑応答・議論

- 取引所で扱うことができるデータの量が増えてくれば、個別のデータに対して、市場が適正と考える価格が形成されることになるのではないかと。そうすれば、データ取引における価格の指標を提供することにもつながり、取引の適正性の向上につながる可能性があるのではないかと意見があった。
- 取引所における取引の中で、個別のデータに対して市場が適正と考える価格の指標が形成されるようになれば、データを財として扱うことが可能となり、より流通が円滑になるのではないかと。

かとの意見があった。

- こうした取引所機能を発展させることができれば、日本では、データに対して公正な価格形成ができる取引所があり、円滑なデータ流通ができるという評価が生まれる可能性がある。そうした評価を得ることができれば、日本の国際競争力強化にもつなげることができるのではないかとの意見があった。

(了)

(速報のため事後修正の可能性あり)